

# 事業報告書

平成29年度

社会福祉法人 福鳳会

# 社会福祉法人福鳳会

## 概況及び基本理念

### <はじめに>

基本理念の下、敬老愛護、お客様ファースト実現のために必要な職員資質向上への取り組みを進めた。

安定的な経営を目指し、他に少ない、価値のある、特色ある安心のサービスの充実強化に努めた取り組みを推進した。また、新しい給与体系の導入による職員の処遇改善を行い、介護ロボットの導入をはじめとした職場環境改善を進めている。

### 事業所数 11事業所

- ・ 特別養護老人ホーム 2事業所、併設型短期入所生活介護 1事業所
- ・ 通所介護事業 2事業所
- ・ 認知症対応型通所介護事業 1事業所
- ・ 訪問介護事業 1事業所
- ・ 訪問入浴事業 1事業所（平成29年12月末付け廃止）
- ・ 居宅介護支援事業 1事業所
- ・ 地域包括支援センター 1事業所
- ・ サービス付高齢者向け住宅 1事業所

職員数 214名 （平成29年度正規職員 採用者数13名／退職者数15名）

男女比 1：3

平均勤続年数／平均年齢 8.5年／45.5歳 平成30月3月末現在

### 基本理念

- ・ 高齢者の生活と人権を尊重し、公正で開かれた施設運営に努めます。
- ・ 高齢者が地域で安心して生活を送ることができる拠点施設となるように努めます。
- ・ 施設は、利用者の社会生活の場として位置づけ、安全で安心した日常生活を送ることができる環境づくりに努めます。
- ・ 職員は、常に満足のいただけるサービスが提供できるように励み、地域社会活動にも積極的に関わり、地域から求められる施設となるように努めます。

## 活動状況



### ・主な活動ポイント

- 法人内研修の充実。年間を通して法人内研修を開催。

19項目の研修を延べ49日間実施し、延べ821人の職員が参加した。法人内研修に参加することが定着してきている。

安全衛生委員会から要望のあった安全運転講習を追加で実施した。

自己啓発研修費貸与制度を利用した職員は3名。

- 人材育成。定期的な面談を開始。

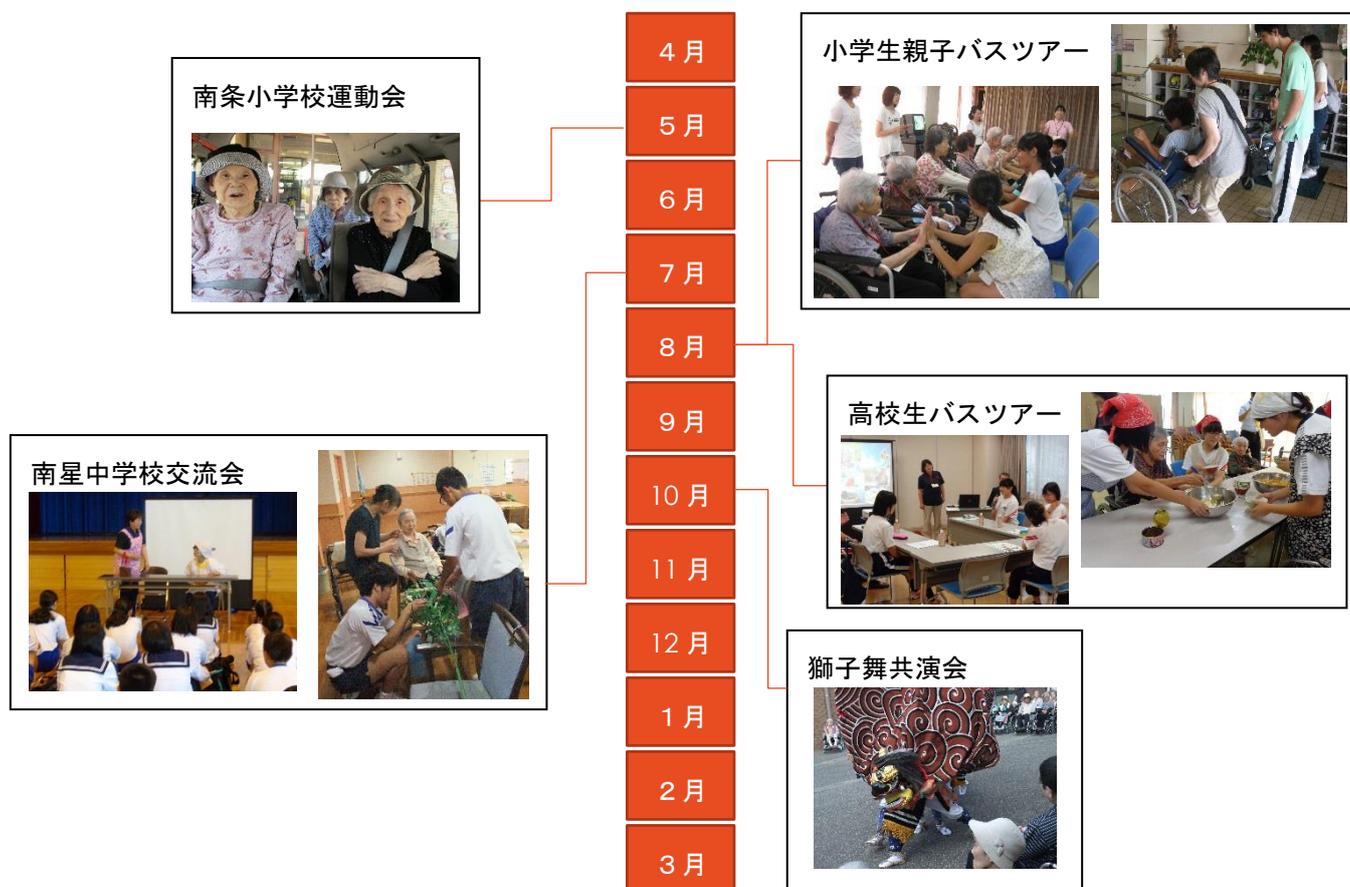
職能要件書職能評価シートを使用した面談を本格的に始めた。年2回の実施を推進した。

面談を通して、コミュニケーションを図り、法人の考え方や職員自身の考え方などを明確にし、より良い人材作りに繋げていきたい。

- 安全衛生委員会を定期的に行い、職員の労働環境改善のための提案を行っている。

『整理・整頓の日』を活用することが定着してきている。

## 社会貢献活動



### ・主な活動ポイント

年間行事計画に基づき実施した。

#### ○ 南星中学校交流会の受け入れ

今年は事前に中学校を訪問し、車イスの使い方や認知症について等のレクチャーをすることで、理解を深めてもらうことができた。来年度もお願いしたいとの学校側からの要請があった。

#### ○ 小学生親子バスツアー・高校生等福祉の体験

富山県社会福祉協議会からの依頼により、福祉について広く知ってもらうために積極的にバスツアーを受け入れた。（小学生親子15組、高校生5名参加）

#### ○ 葦野町・荒見崎獅子舞共演会、福田公民館祭り

葦野町・荒見崎獅子舞共演会を鳳鳴苑で行ってもらい、地域との交流を図った。

公民館祭りにおいて、利用者様の作品展示・職員による踊りの披露を行い地域の行事に積極的に参加した。

# 特別養護老人ホーム鳳鳴苑

## ユニット型特別養護老人ホーム鳳鳴苑

### <事業概況>

○入居者数 従来型 90名・ユニット型 40名

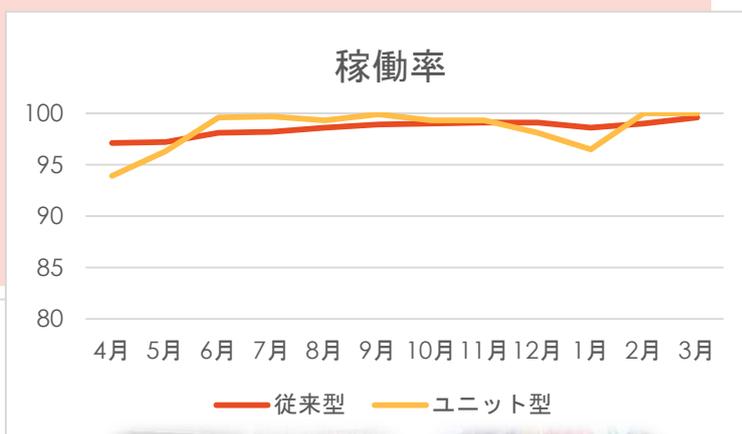
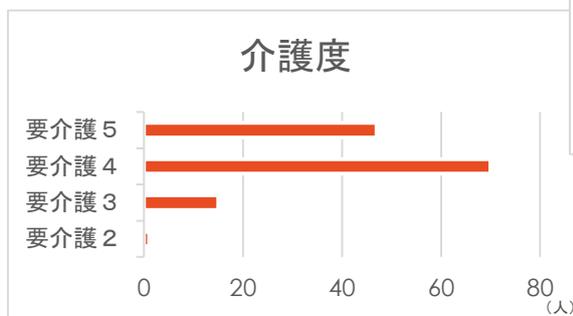
○年間稼働率 98.5%

○年間看取り者数 25名

○年間平均介護度 4.2

○年間平均年齢 88歳

○男性：女性 20名：110名



### <活動状況>

#### サービス向上

- ◇ 看取り介護対象者が前年度よりも増えた。それに伴い、家族への説明方法等の工夫を行ってきた。看取り終了後、施設での看取りを選択してよかったという言葉をいただくことも増えている。一方で、入居後間もない内に看取り状態となる入居者が見受けられるようになった。入居時から心身ともにレベル低下している状態のことも考慮しながら、本人・家族の意思を確認することを徹底している。
- ◇ 家族懇談会、小学校、中学校の交流会において施設の情報を発信してきた。家族懇談会では、「食事」をテーマに日頃行っているケアについて理解を深めてもらった。また、文化祭においても食事形態や取り組みを掲示した。

#### 業務改善

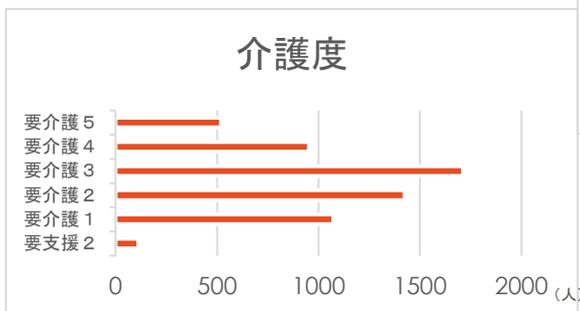
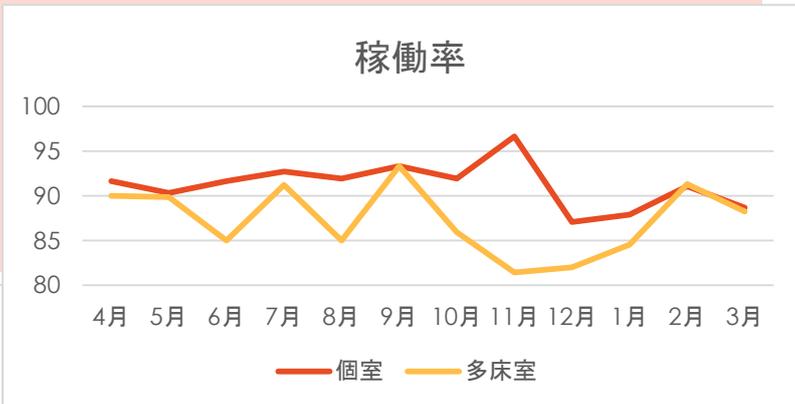
- ◇ KYT(危険予知トレーニング)活動を繰り返し行っている。目標である信頼される施設・職員となるよう努めてきた。
- ◇ 現場職員が検討を重ねる場として業務改善委員会を開催してきた。休憩についての見直しや育休明け職員の働き方や、各種委員会等会議のあり方などについて検討している。
- ◇ 腰痛予防対策としてスライディングシート、ボード、介護ロボット「愛移乗君」の導入を順次行ってきた。ボードについては介護職員の実技試験を実施し、正しい使用方法の普及に努めてきた。

# 特別養護老人ホーム鳳鳴苑

## 併設型短期入所生活介護（ショートステイ）

### < 事業概況 >

- 定員数 多床室14名・個室4名
- 年間稼働率 88.2%
- 年間延利用者数 5,793名
- 年間平均介護度 2.7
- 1日平均利用者数 15.9人



### < 活動状況 >

#### サービス向上

- ◇ 多職種で利用者の体調管理に努めてきた。変化があれば家族に連絡し、その後の対応に努めてきた。また、利用中にリハビリを希望されることが増えてきており、実際に機能訓練指導員（理学療法士）が自宅まで出向きアドバイスする対応をしていることもあり、利用者様、家族からも信頼を持たれるようになってきている。その他については入所と同様の活動を行ってきた。
- ◇ 送迎に関して、出来る限り個別送迎を実施し、本人・家族の負担を減らすよう努力している。
- ◇ 日々、信頼される施設、職員を目指して日々の対応、言葉使い等について意識した対応をするように働きかけた。

#### 業務改善

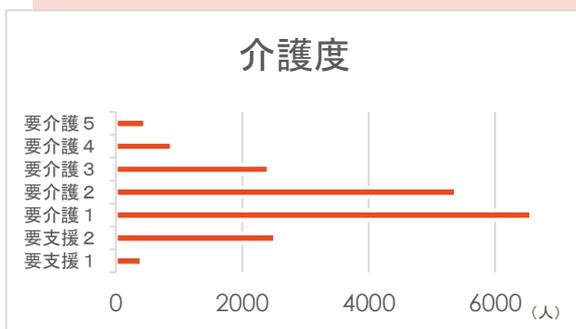
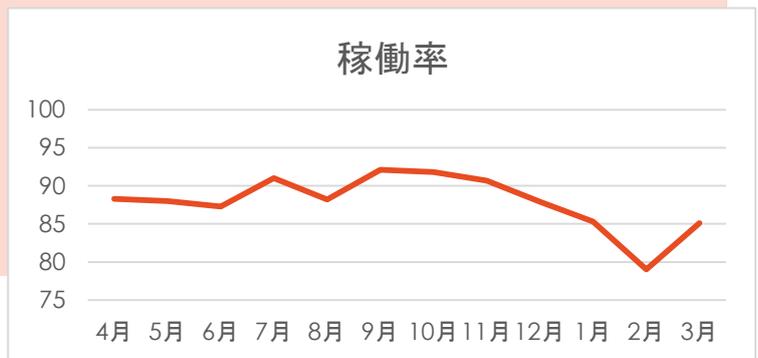
- ◇ ショートステイについて分かりやすくアピールするための広報誌を作成し、居宅介護支援事業所等、介護支援専門員向けに配布し、営業活動を行った。昨年度に引き続いた活動の成果もあり、稼働率も昨年度よりも5.8%上昇した。



# 鳳鳴苑デイサービスセンター 通所介護事業所

## < 事業概況 >

- 定員数 70名
- 年間稼働率 87.8%
- 年間延利用者数 19,098名
- 年間平均介護度 1.7
- 1日平均利用者数 62.5人



## < 活動状況 >

### サービス向上

- ◇ 「介護予防・日常生活支援総合事業」と「すこやか運動教室」に関しては継続的に実施し、地域の方々とのつながりを維持してきた。
- ◇ 十二町島公民館納涼祭や福田公民館祭りに参加。アトラクションを披露し地域の方々に歓迎していただいた。
- ◇ 利用者・家族との関係については、それぞれの意向や気持ちに添いながら良好な関係づくりにつながるよう努力してきた。

### 業務改善

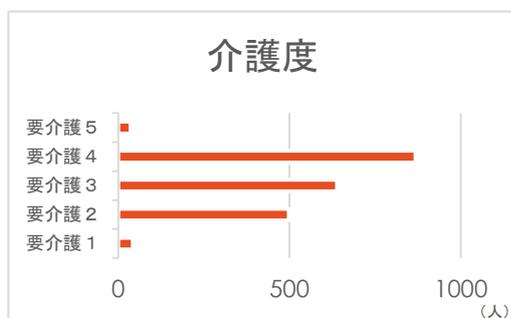
- ◇ 苦情については都度原因を探り、更に良いケアに結びつくように職員への助言に努めてきた。事故や体調不良時について、家族に段階的に報告し良好な関係づくりを意識するように努めている。
- ◇ 多職種連携に努め随時行う事が出来た。
- ◇ 1、2月は豪雪の影響で稼働率が低下したが、生活相談員が中心となり毎月他事業所への訪問を継続的に行い、送迎の改善などもあって、年間稼働率は、前年度に比べて3.4%改善した。



# 鳳鳴苑デイサービスセンターえがお 認知症対応型通所介護事業所

## <事業概況>

- 定員数 12名
- 年間稼働率 56.0%
- 年間延利用者数 2,084名
- 年間平均介護度 3.1
- 1日平均利用者数 6.7人



## <活動状況>

### サービス向上

- ◇ 事業所専用の送迎車両を持つことによって、利用者様の希望に沿った個別のサービス提供時間に柔軟に対応できるようになり利便性が向上した。
- ◇ レクリエーションにおいて季節に即応したドライブ行事等が行え、利用者様の満足度がアンケートにも伺えた。
- ◇ 事業所単体の電話番号が出来たことにより利用者、家族と相互の連絡が密になり信頼性が増した。

### 業務改善

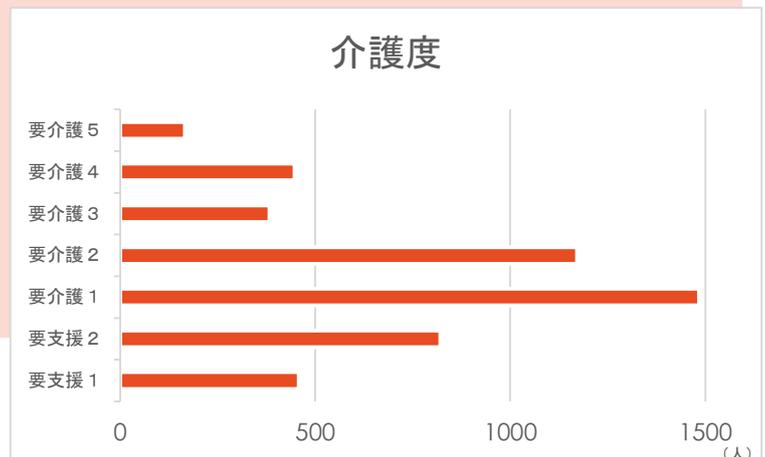
- ◇ 1日の利用者数は平均6.3人と少なく、稼働率では目標を大きく下回る結果となった。営業活動に力を入れられなかったことが原因と考えられる。サービスの質の維持を図っていきたい。
- ◇ 職員の介護技術向上を図るために平成29年度の認知症実践者研修に1名参加、研修課程における施設内実習を行い、職員全員で課題に取り組むことによって認知症について再確認することが出来た。
- ◇ 年2回の運営推進会議開催も今年で4回目となった。最初は家族の方々や地域の方々も手探りの状態であったが、事業所の業務内容を少しでも地域の方に理解してもらえるようテーマを決めて会議することで、少しずつ意見も聞けるようになった。



# 鳳鳴苑デイサービスセンター 訪問介護事業所

## <事業概況>

- 年間延利用者数 5,080名
  - 身体介護延利用者数 1,385名
  - 生活介護延利用者数 2,226名
  - 折衷型介護延利用者数 12名
  - その他 1,457名
- 年間平均介護度 1.6
- 1日平均利用者数 9.9人



## <活動状況>

### サービス向上

- ◇ 平成29年4月より、介護予防・日常生活支援総合事業に参入し、より多くの利用者の自立支援に向けて、多職種との連携を図り、適正なサービスを提供した。
- ◇ 職員(登録ヘルパー含む)の介護の質の向上のため、サービス提供責任者によるサービス提供時の状況確認や指導等は特定利用者のみしか行うことが出来なかった。

### 業務改善

- ◇ 随時各事業所に情報提供をおこない、サテライト事業所(高志の郷内)も有効活用(職員1名の常駐を開始)し、新規利用の獲得を積極的に行うことにより利用者が増加した。

# 鳳鳴苑デイサービスセンター 訪問入浴事業所

<事業概況>

平成 29 年 12 月 31 日以降事業廃止

# 在宅介護支援センター 居宅介護支援事業所

## <事業概況>

○年間ケアプラン作成件数 3,264件

○月間一人当たり作成件数 30.2件

○年間認定調査件数 266件



## <活動状況>

### サービス向上

- ◇ 利用者が望む場所で、利用者の意向を確認しながら、包括的かつ継続的に支援してきた。介護支援専門員のコンプライアンスである「自立支援」を念頭に置きながら任務を遂行した。
- ◇ 予防プランは、利用者や家族の意向を受けて適切に受託し、契約締結した地域包括支援センターの数を増やした。一定の担当件数を維持した。
- ◇ 中断中の利用者に対して適宜状態確認を行い、サービスが必要なときには相談しやすい体制を整え、迅速に対応してきた。

### 業務改善

- ◇ ワイズマンやキントーン、高岡多職種連携システム等現在活用しているシステムを適切に使用し、業務時間の効率化につなげている。
- ◇ 病院や各地域包括支援センターへ当事業所の特色や受け入れ体制を伝えたことや、それぞれの介護支援専門員が細やかに関わったことで、いままで以上に有機的な連携を構築しつつある。今年度は過去最多の給付管理数となった。

# 木津・福田・佐野・二塚地域包括支援センター

## <事業概況>

○年間相談件数 2,180件

○1日平均件数 8.0件

## <活動状況>

### サービス向上

- ◇ 高齢者が住み慣れた地域で尊厳をもって自分らしく安心して暮らせるよう、地域包括ケアシステムの構築に向けて地域との連携を図った。
- ◇ 地域住民に対して介護予防についての説明会や教室等を開催した。
- ◇ 高齢者を地域で支える体制づくりを各地区で行えるように今後も働きかけを行っていく。
- ◇ 必要な支援がスムーズに受けられるよう医療機関との連携を図った。

### 推進事業

高岡市の委託を受け、以下の事業を行った。

#### ◇ 包括的支援事業

地域包括支援センター運営事業・在宅医療/介護連携推進業務・認知症地域サポート事業

ネットワーク構築事業

#### ◇ 地域ケア会議推進事業

地域ケア会議開催業務（個別課題会議開催・地域課題会議開催）

#### ◇ 介護予防・日常生活支援総合事業

介護予防ケアマネジメント事業・介護予防・日常生活支援総合事業評価事業

普及啓発型プログラム（生きがい湯ったり事業・元気はつらつ倶楽部）

特化型プログラム・地域における介護予防活動支援

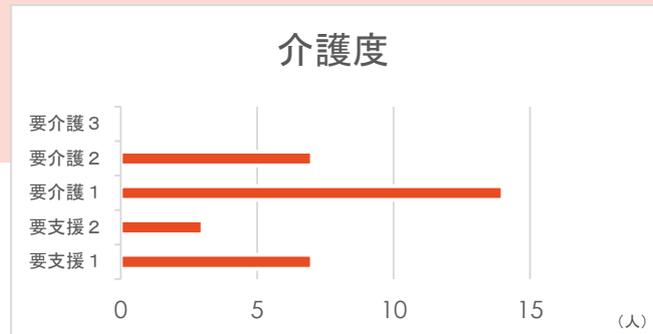
# サービス付高齢者向け住宅高志の郷

## <事業概況>

○居室数 45室

○平成29年3月末時点

入居数45人 44室（空1室）



## <活動状況>

### サービス向上

- ◇ 入居者の皆様に、安心・安全・充実した生活を過ごして頂けるよう、関連機関との連携を充実させ、入居者の皆様の声を聞き、イベント等を開催し日々の生活が充実して頂けるよう努めた。
- ◇ 協力医療機関（林整形外科クリニック、林内科医院）との連絡・連携、林内科医院よりの往診、定期受診時等の送迎(有償サービス)等により、健康面でのサポート充実に努めた。
- ◇ 高志の郷職員が、日々の安否確認等により入居者の皆様の体調の変動について即時に対応出来るよう努めた。
- ◇ 定期的に、メフォス（給食委託業者）、鳳鳴苑調理課、高志の郷で会議等を開催し、より充実した食事やサービスを提供出来るよう努めた。
- ◇ 食事会（春・秋の年2回）の実施、デイサービスセンター主催のイベントへの参加など行った。

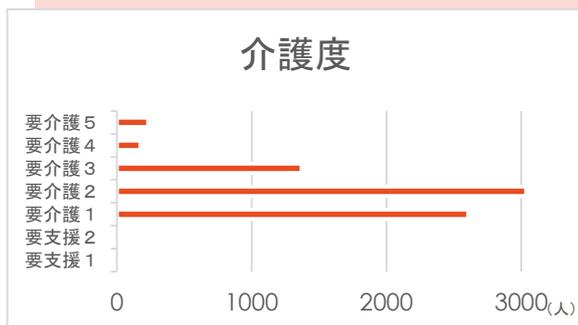
### 業務改善

- ◇ 平成30年2月末現在で満室となった。今後も継続出来るよう、新規入居希望者への対応や関係機関への情報提供を行っていく。
- ◇ 節電や節水を心掛けコスト削減に努めた。
- ◇ 関連機関との会議や対話を行い、連携を強く出来るよう努力した。
- ◇ 生活相談を通し日々の生活に対する要望や問題点に即時に対応し、快適な生活環境を提供出来るように努めた。
- ◇ 館内外の修繕には業者と連絡・連携し早急に対応し、入居者の皆様に不便をかけないようにした。

# 高志の郷デイサービスセンター

## <事業概況>

- 定員 30名 営業日数 310日
- 年間稼働率 79.0%
- 年間延利用者数 7,505名
- 年間平均介護度 1.7
- 1日平均利用者数 24.2人



## <活動状況>

### サービス向上

- ◇ 平成29年4月時点で総合事業への参入を見合わせたことで、要支援利用者は現在0名となっており、稼働率は低下したが、要介護度の高い利用者の受け入れに努めたことでサービス活動収益は、5.4%の増収となった。
- ◇ 車椅子対応車輦(軽自動車)を追加導入したことにより、円滑な送迎体制を構築できている。今後も広い範囲での利用者獲得に繋げていく。
- ◇ 地域ボランティアの訪問や各種イベントを開催する際は、併設されている住宅の方々にも広告や案内文を配布して共同開催するよう努めた。
- ◇ 歩行や活動の妨げとならないよう設備点検や備品配置等に配慮し、日常的な整理・整頓に心がけ、安全に利用できる環境作りに努めている。
- ◇ 事故発生件数は昨年度と比較して大きく変わらなかった。また大きな事故の発生もなかった。事故ではないが職員の対応に関する苦情が多く、利用中止に繋がったケースもあった。個々の思いを受け止める真摯な対応を心がけることと、職員同士の気付きや情報を共有するよう努めた。

### 業務改善

- ◇ 相談員による事業所の訪問・広報の配布・ホームページの活用・居宅や地域包括への情報提供はこまめに行うよう努めた。
- ◇ 事業所訪問の際に、デイの空き情報を事業所に配布するとともに、ケアマネージャーと情報交換するなどして、良い関係を築き、新規獲得に繋がるよう努めた。